

五十音小説

全

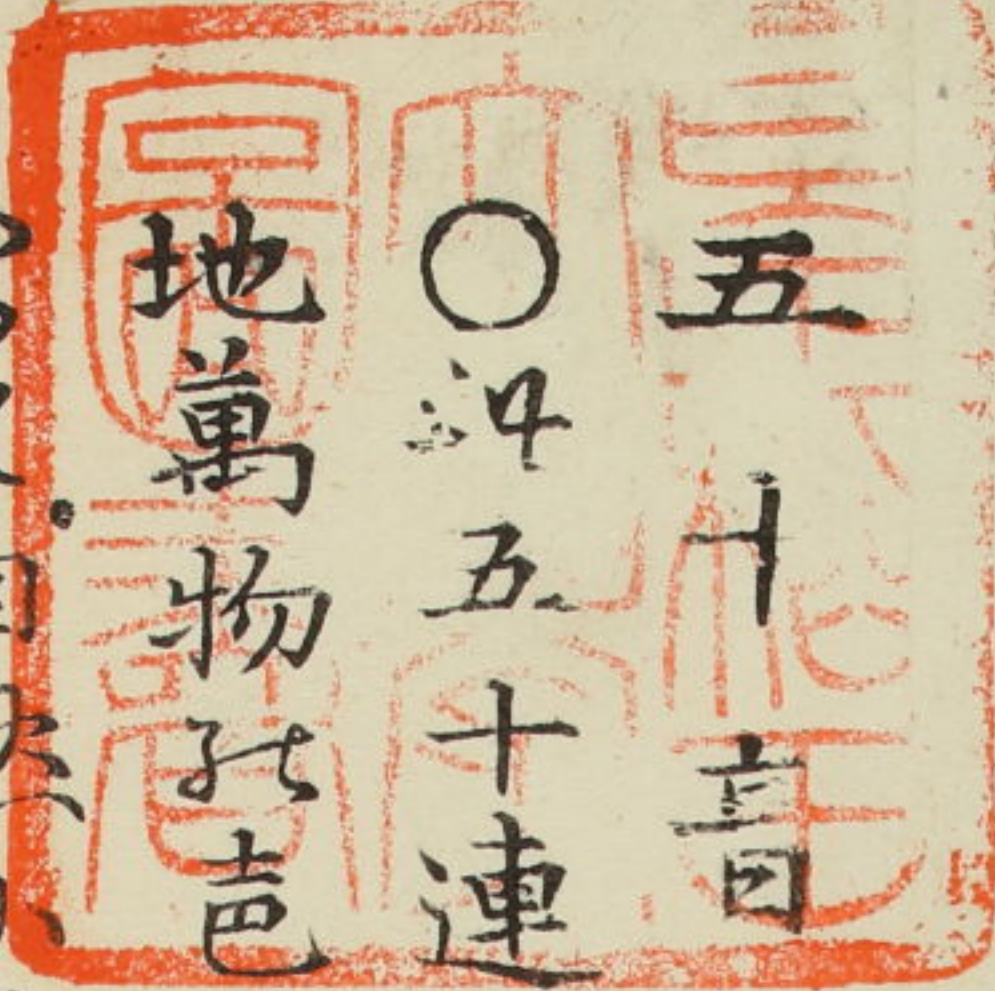
服部文庫

117

460



五
十
音
小
説



○此五十連音ハ、誰が作らざらば、神世のはづれあり。天

地萬物に色コトダニの限りなき、茲に盡して其方位等次を、如此次第せるものを

とて、自然の傳來し物なり有りける。彼上古に言靈と指サりし其本源ハ、即

此五十連音の事にして、萬葉集に、日本に倭の國あり、言靈ハ、幸サキはふ國、ま

た言靈ハ、助くは國と云ふも、其元ハ此連音の、纒マユり五十にして、天

下古今に色韻を、包括し、萬變に應じて、餘も事明き靈妙を、稱せし言な

アけるが、只それとなく、言語に徳を賞^{ホム}る方にも相兼て、云ふこと有れ
り、されば當昔^{ソノカミ}其世の人を、此連音の然あるゆゑより、誰しと皆よく
心得てありければ、殊更に物ふ録しも置けりけるを、却てなべて其人
の、まゝぬせとありて、梵語ふををあつゝ、いも人みまに、記しおろし
し、むせに遺りしふがある、其を本とれ心得そ、實に言^{コト}靈^{ダマ}とも稱さるべ
き物にして、言語の學に是より出づるは、あゝ恒に語の延約活用、助
辞の、かゝるにむるるでも、是を以て推はふ、即規矩準繩ともなるもの

多うれば、歌學きん世の人を、此五十連音に依て、言に統をもとり、
其捷徑^{チカミチ}も、ちとと、今童蒙^{ドウモウ}れ、つらに、簡約して、其一端を、つらにあり、
○弘法大師の真蹟に、いろは假字に體を、見そ、ほろく、按ずるは、そと漢
字を借て、つらに其字形ハ、漢の筆法を、拘らば、各其音色に、本體に隨て、
製し、つらにその也、此、其事を、一二つ、先^ツ阿^ア和^ワなとの如く、圓體に
る音に、其形を、ありとやうに、圓く作す、知^チ都^ツ等の、ほろく、やうに、音に
を、ちつとやうに、少く丸く作す、細長き音に、いと作す、纏^{マツ}りや、廻れ

る音は、おめおとやうに作り、口鼻を兼て、出安き音は、うとやうに
作り、牙れ間隙より出ぬ音は、いとやうふ作り、唇の反て出る音も、
へとやうに、作り、おんほが、し、此他も是に准て、知、し、も、く、音義
を解ふも、其音を口に唱へ試て、其形より考へ行が、肝要れ、わ、ご、た、う、う、
かく、ハ、物し、お、へ、る、ぬ、ぐ、し、も、も、も、お、ほ、の、省、草、に、漢、字、れ、筆、畫、を、も、兼
な、ぶ、る、音の體を顯はし、お、る、も、妙と謂ふし、故、此、予、が、五、十、音
圖説と云物に考へ置は、音圖を畧して、出、さん、う、も、思、ん、け、れ、ど、彼、い

ろは假字に上、に、も、事、ち、う、と、は、な、ぶ、て、お、人、の、心、付、を、後、に、う、と、あ、り、ま
れ、を、今、ハ、此、事、を、も、知、ら、ぬ、音、れ、體、を、も、見、習、う、め、ん、う、め、に、少、く、真、蹟
の書體を模して、記せり。

○此五音十行の等次を、もと縦横ともに、圓うふ旋^{まが}り列りて、豎五等を、
あとおと相對し、いとらと相對し、うハ中央に亘りて、物を為し音れ、故ふ、
次の九行ハ、皆う、韻を又とし、あ、音を母として、出生せり、其、と、あ、即、圖、中
に記せり、が、め、し、さ、う、う、に、其、音、れ、通、以、も、次、に、九、行、皆、相、共、ふ、此、順、に

随ひり。又横十行ハ。あ行と。わ行と。相隣りて。か行ハ。あ行を助け。ら行も。や行を助け。や行ハ。わ行を助け。さ行ハ。な行も。各並び助くる所ありて。活々。大方此音。或ハ二行で相並び通ひ。或ハ相對ふ所ありて。通ふ例也。マにヤハ。ハ。イの拗音より成リ。ワも。ウの拗音より生じたり。又五音相通なるを。類々。久しき時。うの誤也。これより詳し。此事ハ。本書圖説に發見を待て見べし。茲はを逸ル。初學にせよ。安げ。ふの。ぬきくあがつ。

齒	牙	喉	本音	阿韻
頰	久	唯	あ	起
音	音	音	三	伊韻
さ	か	あ	い	未定
ア	ア	三	二	宇韻
ス	ク	三	一	既定
し	き	い	う	衣韻
イ	イ	二	ハ	令命
ス	ク	三	四	於韻
す	え	一	お	休
三	二	一	五	
せ	け	ハ	オ	
エ	エ	四	ク	
ス	ク	三	オ	
や	こ	オ	ス	
オ	オ	三	ク	

○開合とハ。凡そ人口を開け。阿ハ音あり。口は合され。バ。宇ハ音あり。これを。軽く。輕重ハを云。な。よ。が。あ。これ。言葉に。あ。所。の。よ。う。は。さ。や。う。用。七。赤。と。は。其。音。と。口。に。唱。へ

	喉 宇 音	舌 留 音	喉 忠 音
用	アウ	アル	アエ
體	イウ	イル	イエ
用	十	九	八
體	エウ	エル	エエ
體用	オウ	オル	オエ

唇 武 音	半 半 唇 喉 音	舌 奴 音	舌 都 音
アム	アフ	アヌ	アツ
イム	イフ	イヌ	イツ
七	六	五	四
エム	エフ	エヌ	エツ
オム	オフ	オヌ	オツ

試し、姑く口中の開を閉、
 閉るは合と心得べし。そ
 べて其詞其發言ハ、開音
 なるも、いん收る結びに
 ありて、合に止るが常
 されむ。其開々の口れを
 らきに依て、軽重ハ自ら
 に知れぬ。くわどるや、
 ふこわらのつどを、い
 種々に分ちて、むつう
 く、云ながら、書もあれど、
 實を其用の説ども多う
 れバ、あれがらに思ひ泥
 むすなれし。

あ行を以て約むべし。凡て詞の下にあるいうえを、あ行にあらば、やわの二行のいうえ也。故に詞に下れるを、延約也。必後比いうえを用ふべし。近來其説に、あ行き、中の八行へ通りぬむ、やわの二行を以て約めんといひ、又やわの二行ハ、反切にあらうべし。皆あ行に引付てみる。共よ古語に背きて、つひしを強説なり。

まゝ此假字反に二重に反し約むらむとあり、そん故き、かゝるがゆゑの約らう。らう比反ら、ゆゑ比反らぬと、らえと反してなとれる也。あハ、

まゝごとの約也。まがみ切まごとの切ごあるを、まごを約して、もとまがねがすがハ、あうしなぐは約也。あうハ本の如くはして、あを約れハ、もとねを、そに轉じ、からの約かたれば、あうに、ごとねを、又再此、あうを約て、あを、まごとねるがごとし。

又、あうの類を速に約る法あり、その幾言ある録も、其上下の二言を取て、約る也。神代紀、あうむらむ、ちと云ふやある、其初、のほと、終の、あを取て反せば、ちと約る。又上の、かゝるがゆゑ、あう、かを除て、らうが

ゆゑに上の引と下のを反せば直よれと云ふ。又南がごとく云ふに上のゆゑと下れとくを反せば直にもと約りて二重に反せと云ふは同し事あり。何れも此詞もよんで皆此例の如し。

延言

言語ふ延約あるは其連きた随ひ勢ひに依ておのづからゆる緩急也。されば約て大なるおきを知らハあれども。又延れば延るほどのおきをけりて全く同まなるハ稀なり。近素或人霧を延ればかきろふと

なると云へ出づるを傍の人云霧と陽炎カキロヒとい其物別也。もし然らば鷹タカハはむくらの約り也。はむくの反たくらの反か也と答て笑ひつはる有り。あまりの泥むけをかやりの説も出来るものなり。其中にも哥の上に也。只調べを助くる為に延るも常多し。其大抵を同むを同まにたほを判りての如きのの如きをのり人やるをやらふ引つるを引つる。かくれをかきふ。かきふはをなす。かくれにせむ。ばをいねまらば。かくれしをかくらし。かくらまらるをかくらばる。まらるの如也。

も。此頃を以て。古言の例を引合せ行^カハ。喻^カを結^カぎて覺^サるべきもの
を。次の行ふを。此のちよめるゆゑに。此の横の通^カひのを。うづら
て。豈^カ通音のゆゑ。ハ。まづ。省^カる。と。さ。て。此行^カみ。り。つ。く。し。り。つ。く。し。い
を。引。を。れ。ど。直。に。二。三。と。通。ふ。例。も。あ。る。也。始。祖。の。音。れ。り。が。故。也。大。に。此
行^カは。精^カき。ま。づ。右。の。次。第。に。異。れ。り。ハ。を。も。つ。く。あ。る。故。

加 此行と。あ行と通^カる。る。ゆゑ。れ。り。が。ず。か。の。を。あ。め。ら。ん。か。れ。を。あ
れ。と。い。ひ。か。ま。を。あ。ち。よ。め。り。い。ひ。不^カ肯^カを。か。ん。ぎ。れ。と。い。ひ。又。音。便。ふ。

り。れ。し。き。を。い。は。し。い。か。く。さ。る。を。な。ら。う。け。る。か。ま。し。く。を。か。ま。し。う。か。ら
く。し。て。を。か。ら。う。と。せ。れ。い。云。れ。も。初。通。ふ。例。也。又。初^カ嵐^カを。こ。ご。ら。し。五^カ十^カ
嵐^カを。い。が。ら。し。と。云。れ。も。ま。づ。召。ゆ。こ。ま。か。り。の。二。行。を。あ。行。の。前。後。に。副^カ
て。其。音。の。羽。翼。に。如。く。れ。る。故。也。此。の。下。の。ゆ。行。れ。糸。に。を。え。ん。を。い。は。し。
又。此。行。と。下。の。ら。行。と。通。く。る。事。多。し。書。紀。ふ。振。を。あ。ま。と。い。ひ。万。葉。上。我^カ
を。あ。ま。と。い。ひ。か。ら。う。と。い。ひ。疑。を。こ。ご。し。と。い。ひ。こ。ご。し。と。い。ひ。う。づ。ら。を
り。ら。つ。と。通。ひ。又。刺。を。い。づ。と。も。も。苛。を。い。ら。と。云。に。同。じ。皆。相。通。つ。る。故

也。けりふりしは通へるゆゑなり。或考るに。此が行ハ。字子に始り。ら行ハ。

字子に終る。故ちる。し。せらるるなり。

【**と**】此行を濁りてやがけな行と表裏するなり。清音に引くが。

【**り**】爲し。引く爲し。なり。ハ。果めり。清音に引くが。

【**ら**】不とえとき。即不のそに反対せり。ゆるにや行也。引く不。引

【**ら**】不。引く不。引くよ。活くハ。是と行を濁ればや行と等しく。不のそに活

く。ゆられハ也。又吳漢の二音にて。舌ガイ舌ガイ而ニ耳ニ。舌ズイ舌ズイ。

【**り**】不ガイの如く。通う。なり。これ。の。言。葉。み。と。も。い。ふ。と。い。ふ。と。ま

【**り**】不セと。ま。れ。と。稲セ。不ア。稲ウ。不ネ。の。類。類。あ。ふ。し。と。も。此。行。ハ。齒音。な。ら

【**ら**】な。行。と。同。ド。ク。舌。も。兼。り。故。あ。る。に。

【**た**】な。此。二。行。ハ。共。ニ。舌音。なり。清。濁。に。依。り。相。通。ふ。事。多。し。【**ら**】

ら。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い

【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い

【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い

【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い

【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い。ふ。事。と。【**ら**】な。ら。と。い

るん。おわ。おい。おゆ。くやむ。くひ。くゆ。くり。く。あやうる。あゆ。あさ。あうゆ。
おし。おゆ。おれ。どやうに活て音の統も。り別也。次の出行と合
せ。おろく考ふ。し。ら行ハ音の最終^{イハテ}ある故。よ。言の始りに^{オコ}。後。は。う
なく。毎と詞のち。にの。子。属。し。と。萬言に従て。連續を。あ。せ。り。これ。よ。の。阿
行の音は。言は。下。ふ。ほ。う。び。又。了。に。も。け。ふ。ほ。う。う。う。な。き。れ。ど。に。對。て。互
に音は。首。尾。灼。し。う。し。か。く。て。こ。こ。に。以。二。行。の。音。は。通。ふ。ゆ。恒。よ。あ。り
た。う。と。や。云。七。あ。や。貴。と。也。古。事。記。の。哥。に。ひ。と。け。う。ゆ。と。も。人。雖^ハ議^ル也。
齊。明。紀。の。哥。に。い。ゆ。ち。か。き。ゆ。萬。葉。よ。か。ゆ。か。ゆ。か。ゆ。か。ぬ。ち。ゆ。あ。や。
よ。あ。る。ゆ。も。る。の。通。音。也。又。い。と。は。え。ほ。く。ま。え。か。う。は。ち。な。ど。よ。あ。る。え。
も。れ。の。通。音。な。る。が。あ。し。こ。ハ。か。行。ハ。あ。行。ふ。従。ひ。て。通。ふ。と。同。く。二。行
相。並。ぶ。が。故。あ。り。な。り。

わ 此行中のうハ。ウハの二音は。一音になれり。て。あ。行。の。う。と。は。同。じ
う。う。が。あ。行。あ。る。ち。う。あ。し。う。つ。く。し。な。ど。多。く。の。言。の。上。に。活。け。て。え。を。
此。行。あ。る。ハ。あ。あ。る。あ。う。あ。え。う。か。る。う。い。う。え。居。つ。き。う。あ。る。あ。と。や。う

けらく引く。其八重垣よのを其八重垣をと云類。多うくしん。凡そ
 此二行の。如此通くると。彼先驅と。後殿との故ありて。既に云。字子の娘
 の加行と。字子終のら行と。互に親しく通くると。同じ心げへ也。世尔是
 等次を改め。同字を除きて云る書なりともあれど。右ありゆへ云所を以て
 も。音の數を。神世のけどめらり。五十ありて。十行は次第ハをばく記し
 傳へくも。やく。一ッもうごうし。雖きものぞ。知べきなり。

おをの入りうらむと云に故
 ちり。圖記るべきなり。

四等活用

行解	卧刺	膝打	
起	か ゆと えん	き ふき えん	た か えん
未定	き ゆと き	ち ふし し	ち か ち
既定	く ゆと く	す ふす す	つ う つ
令命	け ゆけ け	せ ふせ せ	て う て
休	延と と ゆと	延と と ふと	と 俗 か

に 荷^ニ
似^ニ

ひ 火^ニ
火^ニ

み 實^ニ
身^ニ
水^ニ

り 黒^リ
鞠^リ
後^リ

の 荷^ノ
前^{サキ}
似^ニ

ほ 火^ノ
火^ノ

も 實^モ
身^モ
脱^ケ
水^モ
主^水

ろ 黒^ロ
丸^ロ
後^ロ

第四等えの韻 體

け 宅^ケ
竹^ケ
食^ケ

世 風^カ

て 火^テ
火^テ
ま^テ
ぬ^テ
く^テ
ま

第一等あの韻 用

か 家^カ
竹^カ
食^カ
宇^ウ
賀^カ
濁^ダ
音^{オン}
便^{ベン}

せ 風^カ

た 火^タ
火^タ
た^タ
ち^チ
う^ウ
を^ヲ
手^テ
力^{リキ}
雄^{ユウ}

書貸勝飼咀荷

か さ た は ま ら	未然詞
かきむとむ	
き ち ひ み り	續詞
きけむる	
く せ つ ふ む	絶詞
くせつむ	
く せ つ ふ む	續詞
くせつむ	
け せ て め れ	已然詞
とむ	

詞活用格 附 助辞

れ	め	へ	ぬ
小松がうれ 尾がうれ	人目 ちがう あめ 天雨	邊へ	ほろむね ちろむね
		—	
ら	ま	は	な
う 細 う 枯	ま ますき ま ぼろく	邊へ	かきむね うれ 敵

兼捨瘦受得 率舊老浴

ねてせけえ ろりいみ

トでが

をきん

ねてせけえ ろりいみ

やきて

きりり

ねつそくう ろるゆむ

べらり

うとり

ねつそくう ろるゆむ

よまう

うりそ

ねれれれ ろるゆれ

を

ど

戀落起 居射見干似著

ひちき ろいみひにき

トでが

をきんトでが

ひちき ろいみひふき

やきて

きりりやきて

ふつく ろいみひるき

べらり

うとりべらり

ふつく ろいみひるき

にまう

うりそにまう

ふれれれ ろいみひれ

を

どを

<p>助辞乃ら</p> <p>助辞の返り 助辞の返り</p> <p>心みだ</p>	<p>右六格の内未だ一格うけ 形のとれる句ありし</p>	<p>善 悪 遙</p> <p>く く く</p> <p>を</p>
<p>助辞乃ら</p> <p>助辞の返り 助辞の返り</p> <p>心みだ</p>		<p>く く く</p> <p>て</p>
<p>助辞乃ら</p> <p>助辞の返り 助辞の返り</p> <p>心みだ</p>		<p>き き き</p> <p>うと</p>
<p>助辞乃ら</p> <p>助辞の返り 助辞の返り</p> <p>心みだ</p>		<p>き き き</p> <p>うと</p>
<p>助辞乃ら</p> <p>助辞の返り 助辞の返り</p> <p>心みだ</p>		<p>き き き</p> <p>うと</p>

<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>	<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>
<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>	<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>
<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>	<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>
<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>	<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>
<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>	<p>来 為 去 有</p> <p>へ め え れ る</p> <p>心みだ</p>

